

16年の歩みに、心からの感謝を

黒田市政16年間の主な記録



平成22年4月から平戸大橋・生月大橋の通行料が無料化され、市民生活や観光の利便性が向上しました。



オランダ東インド会社の貿易機能としての商館設置が認められ、平成23年に復元した平戸オランダ商館が開館しました。



平成26年度のふるさと納税寄付額が約14億6,000万円に達し、全国1位になりました。



平成25年10月にイギリス大使のティム・ヒッキンズ閣下をお迎えし、平戸英國商館設置400周年記念式典を挙行しました。



長崎県の産炭地振興基金を活用し、平成24年2月、平戸産に拘った産直市場「平戸瀬戸市場」をオープンしました。



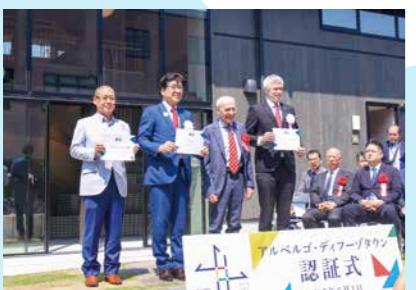
平成25年7月に鄭成功記念館が開館し、平成28年9月には記念館に続く参道の入口として鄭成功記念館山門が完成しました。



平成27年8月に平戸図書館が平戸市未来創造館(COLAS平戸)として移転・新築されました。



平成30年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が念願の世界文化遺産に登録されました。



令和6年度に城下町・田助エリアを整備し、令和7年6月に世界初のアルペルゴ・ディフーナタウンとして認証されました。



インバウンド戦略として観光庁との協議を経て、令和3年4月に日本初の城泊事業を開始しました。



医師の偏在を是正するため、長崎大学医学部との連携を軸に平戸市の医療提供体制の支援を行ってきました。



11月5日、職員の胴上げで送り出される黒田市長

16年間平戸市行政運営に当たった黒田市長が、任期満了に伴い11月5日をもって退任し、同日議場で退任式が行われました。

松田副市長が職員を代表して「市長の就任以降、平戸市のブランドイメージは大きく変わり、ふるさと納税や各種事業を通じて全国的にも注目を集めました。人口減少という課題に対しても、市長の強い思いと行動力がさまざまな施策に表れ、職員にも大きな刺激を与えてくださいました。「歴史」「祈り」「恵み」を軸とした市政は、国内外との交流や地域資源の活用など、多くの成果を生み出し、市議会での答弁や政策協議では、誰もが思いつかない視点と情熱に満ちた姿勢に、私たちは多くを学び、市長の背中を追い続けた日々は、職員にとってかけがえのない宝物です。今後は新たな市長のもと、新しいページを刻んでまいります。黒田市長のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました」とあいさつしました。

黒田市長退任

私は去る11月5日をもって平戸市長を退任いたしました。ここに改めて皆様方のご支援ご厚情に対しまして厚くお礼を申し上げます。

16年の歳月は、私にとって貴重な体験であり、市民の皆様にとりましても激動の年月であつたと思います。

平戸市は合併から20周年の節目を迎えました。しかし一方で、時代の流れは否応なく変化を求めており、今後も行政課題は押し寄せてきます。特に地域を支え合う仕組みを持続可能なものにしていくために、安心安全を保障する防災や医療、交通政策などはとても重要な課題です。次代を先取りした政策構築は困難で、骨の折れる業務ではありますが、市民の皆様が新しい市長の元で団結してほしいと強く望んでおります。

結びに、今後とも平戸市が、かけがえのない歴史や伝統文化を確実に継承し、明るい未来に向かって輝き続け、国内外を問わず多くの皆様に選ばれ続けられる自治体として発展しますこと、そして市民の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、退任の挨拶といたします。